

第4学年1組 国語科学習指導案

授業者

1 単元名 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう
『友情のかべ新聞』 はやみね かおる (光村図書4年)

2 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
(知識及び技能(1)オ)
- 登場人物の気持ちの変化や性格、行動の理由について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することができる。
(思考力、判断力、表現力等C(1)エ)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
(思考力、判断力、表現力等C(1)オ)
- 言葉がもつよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 児童と単元

(1) 児童について (8名)



(2) 単元について

本単元で取り上げる『友情のかべ新聞』は、語り手である同じクラスメートの「ぼく」が、学校生活で起きる「なぞ」を推理し、解明していくミステリー作品である。日常生活の中でストーリーが展開していき、児童にとっても馴染みやすく、「ぼく」の目線からの一人称視点で語られることにより、物語の中に自然と引き込まれ、読者も「ぼく」とともに謎の解明に挑みたくなるおもしろさを味わうことができる。

本単元では、『友情のかべ新聞』を読んでおもしろいと思ったことと、その理由を交流する言語活動を設定する。推理とその根拠となる場面の叙述、そして、結末を結び付けて考えることで、表現や構成の工夫を学ぶことができ、散りばめられた数々の伏線が、多様な考えを交流するのに好適な教材となっている。また、物語の感想を交流することにより、自分と同じ視点や、気付かなかった新しい視点や考えに触れ、読みが更に深まり、物語の新たなおもしろさを発見することが期待できる。そして、多角的な見方で物語を読む力を身に付けていくことで、作品の魅力を再発見し、読書に親しむ態度も育めるようにしたい。

(3) 本単元で身に付けたい資質・能力及び関連する単元について

- ・登場人物の気持ちの変化や行動の理由について、その前後に書かれている文や場面の移り変わりや結び付けて、具体的に想像して読む力
- ・関連する単元： 第3学年「三年とうげ」
第4学年「一つの花」「ごんぎつね」

(4) 指導について

本単元では、まず、初めて読んで疑問に思ったことやみんなで考えたい問いを出し合う。学習過程の中で、みんなで考えたい問いを協働的に解決し、その学びを振り返ることで、次の学習の課題につなげていくことのできる、主体的に学ぶ力を育てていきたい。

本時では、「ぼく」は、本当に事実を基に推理したのかという問いをもとに、「ぼく」の推理の根拠となる叙述を見付ける。自分が着目した「ぼく」の推理の叙述と推理の根拠となる叙述のつながりが可視化できるように、発表ノートを活用する。グループや全体で考えを共有することで、自分が気付かなかった根拠や考えに気付き、自分の考えに付け加える時間を設けることで、考えを広げるようにしたい。また、推理による謎解きや伏線を回収するという本時の学びを通して、場面の移り変わりや結び付けて、登場人物の気持ちの変化や行動の理由を捉える力を身に付けたい。

単元を通して、感想や自分の考えをうまくまとめることができない児童には、考えを見付けるための視点や文章の書き方モデルを提示する。語彙の不足で考えや感想を書くことに苦手意識をもっている児童も多いため、教科書巻末付録「言葉の宝箱」を掲示したり、児童から出てきた言葉を追記したりして、感じたことを表現するための使用語彙の引き出しを増やし、積極的に使うように促す。また、単元を通した学習の足跡を学習コーナーに掲示し、児童の主体的な読みや言語活動が継続できるようにする。

4 学習計画（全8時間 本時6／8）

次	時	主な学習活動	評価規準（評価方法）・指導に生かす評価		○記録に残す評価
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1 ・ 2	物語を読み、学習の見通しをもつ。 ・登場人物、大まかな出来事を捉える。 ・他のミステリー作品について知り、読書意欲を高める。 ・初発の感想や問いを交流し、単元のめあてと学習計画を確かめる。	○場面の様子や登場人物の言動や様子などを表す語句に着目し、語彙を豊かにしている。 (ノート・観察)		
2	3 ・ 4	物語の設定、登場人物の特徴や行動を確かめる。		・登場人物の特徴や行動について、叙述を基に捉えている。 (シート)	
	5	「東君」と「西君」の気持ちや関係の変化を考える。		・登場人物の気持ちや関係の変化について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像している。 (発表・ノート)	○二人の気持ちや関係の変化について、場面の移り変わりと結び付けて自分の考えをまとめようとしている。(シート・観察)
	6 (本時)	「ぼく」は何を手がかりに推理したかを考える。		○推理の手がかりとなる叙述を見付けながら、考えている。(発表・ノート)	
3	7	物語を読んでおもしろいと思ったことと、その理由をまとめる。		○文章を読んでおもしろいと思ったことを、既習内容と結び付けて自分の感想や考えを書いている。(ノート)	
	8	物語のおもしろいと思ったことについて話し合い、単元の学習を振り返る。		・話し合いを通して、友達との感じ方の違いを知り、自分の考えを広げている。(発表・ノート)	

5 本時の実際 (本時 6 / 8)

(1) ねらい 「ぼく」が何を手がかりに推理したのか、叙述と叙述のつながりを見付けながら考えることができる。 (思考・判断・表現)

(2) 学習過程

段階	学習活動	教師の支援と評価 ☆教師のコーディネート	資料等 I C T
つかむ (7) 見通す (5)	<p>見 予想される児童の見方・考え方</p> <p>1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 (一斉)</p> <p>① 「ぼく」は、どのような事実をもとに、二人の出来事のひみつをすいりしたのだろうか。</p> <p>2 課題解決の見通しをもつ。 (一斉)</p> <p>見 ① 「ぼく」が推理したこと ・かべ新聞を作った時の出来事のひみつ ・その後の二人 ② 「ぼく」が分かっている事実 ・人物の特徴 ・人物の行動、様子、会話 ・人物の気持ちや関係の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動を確認、児童が主体的に学習に取り組めるように、本時の学習につながるような前時の振り返りを紹介する。 ・推理部分における「ぼく」が推理したことを整理できるように問い掛け、板書を工夫する。 ・意欲的に課題に取り組めるように、「ぼく」の推理についての評価を問う。 ・推理したことにつながる手がかりとなる叙述を見付けるように促す。 ・活動の見通しをもつことができるように、推理につながる手がかりとなる叙述を一つ取り上げ、全体で確認する。 	電子黒板 発表ノート
考える (8) 学び合う (15)	<p>3 着目した「ぼく」の推理と手がかりについて、自分の考えをまとめる。 (個)</p> <p>4 シートに書いた考えについて話し合う。 (グループ→一斉)</p> <p>5 物語の「語り手」について考える。 (一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・着目した推理の叙述と手がかりと考えた叙述のつながりが可視化できるようにシートを準備する。 ・推理のどの部分とどの叙述が結び付いているのかに着目できるように、本文に線を引きながら確かめるように促す。 ☆ 主体的に自分の考えを見直すことができるように、着目した推理が同じ人同士で情報を共有し、自分が気付かなかった叙述を付け加えるよう助言する。 ☆ 読みの視点を広げられるように、出来事の叙述だけではなく、人物の特徴についての叙述など、複数の叙述と結び付けて考えた児童の発言を価値付ける。 ☆ 「ぼく」の推理は、確かに、二人の特徴や行動、様子、気持ちの変化を結び付けて展開していることに気付くことができるように、板書を工夫する。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">「ぼく」が何を手がかりに推理したか、叙述と叙述のつながりを見付けながら考え、ノートに書いている。 (発表ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを基に、「ぼく」の推理についての評価がどう変化したかを問う。 ・推理部分のある物語のおもしろさに気付くことができるように、「語り手」の役割について問い掛ける。 	発表ノート 電子黒板
まとめる (10)	<p>6 学習のまとめをする。 (一斉)</p> <p>① 「ぼく」は、分かっている二人の特徴や行動、様子、気持ちの変化を結び付けてすいりした。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。(一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめに生かすことができるように、板書を活用しながら課題解決のためのポイントを引き出す。 ・視点を示し、次の学習や生活で生かしたいことや物語のおもしろさに気付いている児童の振り返りを取り上げ、価値付ける。 	発表ノート 電子黒板